



# 京都市学校歴史 博物館だより

VOL.  
17

平成19年10月発行



正門、石塙は、国登録文化財

## 『日本画』 むかし・いま ～明治の京都毛筆画教育を訪ねて～

『小学日本画初歩 七下』  
森川曾文 学校歴史博物館蔵『図画第五号 明治三十二年』  
(生徒作品) 上京中学校蔵『玉泉習画帖』首巻  
望月玉泉 京極小学校蔵『明治四十年度  
高等科卒業生記念画帖』  
(生徒作品)元 竹間小学校

図画教育は当初、西洋の図画手本を引用してつくられた鉛筆画の教科書で行われていました。

しかし長い画壇の歴史をもつ京都では、毛筆画を伝授する必要があるとの意見が起り、三吉艾の尽力により、最初の小学校用の毛筆画手本として、巨勢小石の『小学毛筆画帖』が京都で編纂され、明治21年に発行されました。こうして京都の小学校の図画教育は毛筆画が主流となり、また全国的にも毛筆画教育が盛んになりました。久保田米僊・森川曾文・望月玉泉などの画家も教科書を著し、京都で出版されました。

その後、鉛筆を主とすべきという議論が起り、明治37年に府訓令で小学校図画科教授要項が示されると、小学校長会は図画教材調査をし、範本を作製しました。しかし、手本の使用を禁止、国定教科書を使うようにとの通牒があり、やがて鉛筆画と毛筆画の区別を廃した国定教科書『新定画帖』に移行しました。

かつての京都独自の毛筆画教育を知り、それを契機に、日本画というものを考察したいと思います。図画教科書や生徒作品と共に、明治以前の絵画から現在までの日本画の逸品も展観します。



群兎之図 円山応挙 西京高等学校蔵

手本 柳に鶯 森川曾文  
京都市立芸術大学芸術資料館蔵

## ●開催期間

平成19年10月19日(金)

～平成20年1月14日(月)

\*休館日 毎週水曜日

12月28日～1月4日

\*午前9時～午後5時

(入館は4時30分まで)

(会期中展示替えがあります)

# ♪ 合唱教室 ♪

～学校歴史博物館体験事業より～

今年度からの新しい事業として、合唱教室を行っています。これまでの単発の体験事業とは違って、年間を通して参加していただける、大変に人気のある教室です。

週に1回、約60名の参加者の皆さんが、講師の杉浦修先生の指導の下に、楽しく歌唱力のレベルアップを目指して練習されています。

杉浦先生は「参加者の皆さんは、とにかく合唱が大好き。友達もできて、一緒に歌おう、喋ろう、楽しもうという和やかな雰囲気の中で時間を共有しています。声の出る方も出ない方も歌うことの楽しさを実感されています。また、歌う曲も唱歌や外国曲であっても教科書に出るような曲であったりと、学校歴史博物館での合唱教室の目的が達成されているのではないのでしょうか。」と話されています。

「レッキー」という愛称も決まり、発表会を行うなど、練習の成果を披露しています。



詳細は学校歴史博物館（TEL075-344-1305）までお問い合わせください。



## ～今年度も発売中～ 学校の宝物トラフィカ京カード

今年度も、京都市立学校所蔵の名品が、トラフィカ京カード（京都市バス・地下鉄乗車券）のデザインに採用されました。

### ✿ 平成18年度発売済みデザイン

- ・「比叡」三輪晃勢
- ・「紫式部」中村大三郎
- ・「大原女」由里本景子
- ・「梅に雀」榊原紫峰
- ・「桃の花」川越童治

（発売の場合がございませう。ご了承ください）

市バス、地下鉄とも全車両、全路線でご利用になれ、地下鉄の改札にはカードで直接通れます。カードに使用期限はありません。

市バス→市バス（次の乗車までが90分以内）、地下鉄→市バス・市バス→地下鉄（市バスと地下鉄が乗る日が同じ）の乗り継ぎには割引が適用されます。

発売額 1,000円（利用額1,100円） 3,000円（利用額3,300円）

### ✿ 平成19年度発売のデザイン



6月；「仔鹿」幸野豊一



12月；「愛宕・嵐山渡月橋」稲垣久治



9月；「清水八坂の塔」岩田順三



3月；「洛西早春」山本紅雲

# 企画展 『なんで?』から始まる科学のころ

## ～教科「理科」誕生 120周年～ を開催して

今回の企画展開催にあたり、次のような特徴を展示のポイントといたしました。それは、ひとつに、明治20年に誕生した教科「理科」は“自然を愛する心を育てる教育”を目的としましたが、幕末期の黒船来襲、日清・日露戦争、第一次世界大戦、第二次世界大戦といった世界の科学力をいやでも意識しなければならぬ時期には、自然を愛する「理科」ではなく、科学教育推進が強く現れているということです。例えば明治初期の小学校では「物理」「化学」「生理」といった専門的な教科を設定しました。第二次世界大戦終結後には、物資が不足していたにもかかわらず、文部省はカラー刷の1学年に5冊割り当ての教科書「小学生の科学」を用意しました。これらは、国の科学教育に対する要求が強く出た現れです。展示ポイントのふたつめは、明治36年、小学校の教科書が国定化された時、「理科」は「唱歌」「図画」「体操」と同じく教科書を使わない教科と考えられたということです。教科書使用は禁止されたため、小学校では授業に困って学習帳のようなノートが作られました。しかし、京都では、今も多く学校に残っている島津製作所製の理化実験器械や標本・模型類が証明するとおり、創業者島津源蔵とその長男梅治郎（2代目島津源蔵）、そして当時の教師たちは実際の体験に近づくための教材教具を開発し、それが高額のものではあってもかかわらず、地域の人々の援助によって学校にそろえられました。こういった京都の“実験と観察”を重んじた理科教育の流れを展示いたしました。

最後に、現代の子ども達は、映像技術やコンピューターの進歩によって経験の無い知識を簡単に手に入れ、実際に見た錯覚にとらわれがちです。しかし、現実の感触や刺激から「なんで?」と感じて興味を起す機会を数多く失ってははいないでしょうか。先人の行った教育は、こう語っているようにも思えました。

(学芸員 竹村佳子)



今回の企画展では、昭和40年頃から学校で使用されているプラネタリウムを借用し、体験コーナーを設けました。小学校での星の学習の授業を再現し、入館者には児童者の立場で体験してもらいました。

プラネタリウムはドームの直径が3メートルで、ドームの端の高さを床から1メートルに設定し、外部の明かりを遮光カーテンで遮りました。床には畳を敷き詰めると共に、数枚の星座絵も活用し、さらに、BGMを流して雰囲気作りを工夫しました。

授業の展開は、最初に、星座早見と教科書に出ている夏の星座をまとめたプリントを活用しながら、その日、北・南・真上の空に観られる主な星座や星を確認し、その後ドームの中に入って星空を観察しました。小型のドームのメリットは、星座早見やプリントで確認した星や星座とドームに投影した星空のそれとの対比が容易で、目的の星や星座がどの方角のどのあたりに観られるかが把握しやすいことです。星空の大きさや星の輝きの美しさを、ぜひ実物の星空で実感することを勧めて授業を締めくくりました。約30分ほどの時間ですが、星の世界に浸ってほっとした気分になれたようで、延べ500名ほどの参加者の多くが、帰宅して夜空を眺めてみようという気持ちになられたようです。

現代の市街地では夜になっても光に満ちあふれていて、大人も子供も星空を眺める機会がほとんど無く、たとえ小さなプラネタリウムであっても、人の気持ちを日頃忘れていた自然へと回帰させてくれるのだと参加者の反応を見てその思いを強くしました。

(博物館主事 山内新平)

開催期間：平成19年7月20日（金）～10月15日（月）

# ボランティア市民学芸員の声



## 博物館と私

大溝 徳太郎

博物館の常設展示では、明治の始め「東京遷都」で京都の町が疲弊した際に、他都市に先駆け町衆が協力して「番組小学校」を創設した歴史が紹介されています。

そして小学校以前の市中の教育の様子も、パネル・写真などで展示してあります。また教科書の部屋では、戦後の墨塗り教科書を経験された方が、給食のコーナーでは、親子連れの足が止まります。

企画展では、各小学校所蔵の「たからもの」美術工芸品等が順次公開されています。京都のみならず他府県からも多数来館され、感嘆の声が聞かれます。

私も市民学芸員の一員として、訪れた人たちをご案内して、共に京都の歴史を学びながら活動できることに喜びを感じています。



## 皆様とのふれあいの中で

南 和子

私は初めて市民学芸員の名札を頂いた時、嬉しく又責任を感じました。他府県出身なので学校の読み方から教えて頂くスタートでした。

各展示は意義深く企画展等で徐々に深く学ばせて貰っています。来館者の年齢層も広く又質問も具体的に「竈金半季に一分は現代の金額では？」「当時の就学率は？」等々です。

又ある方は「衾むりさ満し」を見られて「心学の教えを、子供達にいろは歌と絵で伝えたいのは素晴らしい。現代の教育に活かしたいですね」と感動されました。

本年度から常設展も充実、特に学校給食再現は皆様懐かしそうに見て、食育の大切さをおっしゃいます。

これからも皆様とふれあいの中で学びたいと願っています。



## 昔の学校あれこれ

## 第十回

### 保健室

小学校での身体検査が定められたのは、明治33(1900)年の「学生生徒身体検査規程」からで、年2回、学校医が身長・体重などの測定の外に内科・眼科・歯科の検診を行いました。当時の平均身長は11歳で男女とも127.9cmで、現在の8歳児とほぼ同じ身長でした。

学校医は明治31(1898)年から各小学校に設置されましたが、1人で全ての診療科を受け持つのは大変だったことから、昭和4(1929)年から学校看護婦(今の養護教諭)、昭和6(1931)年には学校歯科医も設置されました。

文部省は、昭和9(1934)年に小学校への衛生室(現在の保健室)の設置を定めました。京都では大正末期から、校舎改築の際、衛生室が設置され始めました。

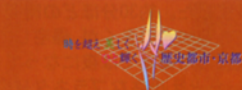


写真「身体測定」  
昭和初期 旧成徳尋常小学校

## 京都市学校歴史博物館

京都市下京区御幸町仏光寺下ル橋町437 (元開智小学校)  
TEL. 075-344-1305 FAX. 075-344-1327

- 入館料/大人200円 子ども(高校生以下) 100円  
(20名以上の団体/大人160円 子ども80円)  
※京都市内の小・中学生は土・日は無料
- 開館時間/9:00~17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日/水曜日(休日の場合は翌日)  
12月28日~1月4日



- 阪急電車/「河原町」駅下車 南西へ歩5分
- 地下鉄/烏丸線「四条」駅下車 南口改札東へ歩10分
- 市バス/「四条河原町」駅下車 河原町通より西へ二筋目(御幸町通)より南へ歩5分